プラン概要書（様式第２号）

プラン名:みんなで挑戦！ふくいスポーツプロジェクト
～デフスポーツを通じて、子どもたちが共に育つ地域づくり～

グループ名： DEAF SPORTS BASE

プランの内容

【地域課題】
地域では障がいのある子どもとない子どもが同じ場でスポーツを楽しみ、互いの違いを知る機会がまだ少ない。またデフスポーツは認知が十分とは言えず、ろう・難聴の子どもたちが競技やデフアスリートに出会う機会は限られている。

【プラン目的】
福井市を起点に、デフスポーツ体験会を入り口に障がいの有無を超えて子どもたちが共にスポーツを楽しみ、違いを知り「自分も挑戦できる」と感じられる福井をつくる。また、ろう・難聴の子どもたちがスポーツに挑戦し、ロールモデルと出会える地域モデルを行政・企業・教育福祉関係者が連携して支援する仕組みをつくる。

【プラン概要】
2026年12月、2027年3月にデフスポーツ体験会を継続的に開催し、学校・支援機関・企業団体との連携を広げる。イベント間もSNSと公式LINEで月2回以上発信し、参加者・保護者・協力者との継続接点をつくる。

【持続性】
1年目は福井市で活動を始め、参加者と協力者を増やす。2年目は開催回数や学校・地域団体との連携を広げ、3年目は県内複数地域での実施を目指す。開催を重ねながら、福井に根づく継続活動へ育てていく。



１年目事業予算

事業予算

収入

項目	金額
支援金	1,000,000
協賛金	300,000
参加費	50,000
自己資金等	50,000
合　計	**1,400,000**

支出

項目	金額
会場・備品費	150,000
広報物制作・印刷費	150,000
SNS,公式LINE運用関連費	80,000
手話通訳者謝礼	150,000
外部ゲスト謝金・移動費	400,000
レクリエーション保険・消耗品費	70,000
活動レポート作成費・事務局運営費	150,000
体験会運営費・外部協力費	250,000
合　計	**1,400,000**

想定する事業効果※プラン完了後に実績を更新するものとする

【定量的な効果】
継続的にデフスポーツ体験会（2026年12月・2027年3月）を実施。累計参加者100以上、SNS・公式LINE登録者100名以上、協力企業・団体5団体以上を目指す。加えて、2027年度以降の継続開催に向けた協力企業3社以上の獲得を目指す。

【定性的な効果】
障がいの有無に関係なく、子どもたちが同じ場でスポーツを楽しみ、互いの違いを知る機会をつくる。仕事と競技を両立しながら挑戦するデフアスリートとの出会いを通じて、子どもたちが自分の可能性を広げ、身近なロールモデルに出会える環境をつくる。さらに、保護者・地域住民・企業・行政・教育福祉関係者が共に関わることで、障がいへの理解と応援の輪を広げ、多様な子どもたちの挑戦を地域全体で支える文化を福井に育てる。

プラン概要書（様式第２号）

プラン名：これからの池田町の風景をつくるプロジェクト

グループ名または氏名：
さとやま子育てコミュニティいけだのそら

プランの内容

【地域課題】

【近所で気軽に遊べない子どもたち】

過疎化で近所に同年代や仲の良い子がいない、自転車で行けない距離がある、親を介さないと遊ぶ約束ができないなど、池田町で暮らす子どもたちの遊び環境には厳しい側面があり、子どもたちの自主性ではどうにもならない問題でもあります。

【実は暗く入りづらい森】

一見豊かな池田の森。しかし、よく見てみると荒れた森も多くあり、倒木や獣害の危険性をはらんでいます。管理を続けるにも権利者や担い手、相続的な問題など複合的に絡まった問題です。特に里とつながる山際部分は町の風景に直結する場所でもあります。

【見るだけ、遊ぶだけの関係の先へ】

いけだのそらを通して年間のべ1000人以上の親子が池田町に来ています。人口2000人の町にこの力が加わるともっと魅力的な地域になるはず。池田町がこれからも続いていくためにも外の力がもっと地域へつながり、より深い関係人口をつくる仕組みが必要です。

【目的】

① 池田町の自然資源を活かした、豊かな保育・子育て環境づくり

② 暗く危険な森を、見通しよく人が集う豊かな風景に変える

③ 森に関わるコミュニティを運営し、継続的に豊かな森づくりを行う

→目的を達成するために「ヒツジ」という存在が重要

【プラン概要】

【動物飼育×コミュニティ運営×里山整備】

池田町内の民家＋裏山が活動拠点。親子コミュニティでヒツジを飼育し、裏山の整備を進め、森の遊び場をつくる。半年間継続して飼育する登録制コミュニティを運営。単発のイベントを実施。

【飼育について】

初期段階は、ヤギ2頭を2年間飼育してきた森のようちえんスタッフ・保護者のコミュニティが、その経験を土台にヒツジ3頭の飼育を担う。そのコミュニティを広げ、より多様な仲間と飼育ができるような場を目指す。

【持続性】

コミュニティから生まれる複数の収益で、事業を無理なく回していく。

① 会費（ヒツジと森コミュニティ・拠点利用）

② ワークショップ・体験料

これらを土台にコミュニティを継続運営しながら、地域での実績を積み上げ、段階的に拡大を目指す。

１年目事業予算

事業予算

収入

項目	金額
支援金	1,000,000
会費	250,000
利用料収入	180,000
WS参加費	200,000
合　計	**1,630,000**

支出

項目	金額
電気柵・ソーラー等	300,000
小屋改修費	300,000
動物導入	300,000
計測機材	150,000
保険許認可	80,000
広報費(新聞、SNS等)	120,000
飼料	90,000
運営費・消耗品費・伐採費用等	290,000
合　計	**1,630,000**

想定する事業効果

【定量的な効果】

・コミュニティによる整備エリア面積
・プロジェクトを通した関係人口の増加

【定性的な効果】

・拠点を通じた遊び場、集まる機会が増える
・暗い森が心地よい風景に変わる
・動物や森を通して、町内外の多様な世代の関係性がうまれる

社会的に期待される効果：
担い手不足で里山整備が不十分な他の地域のモデルケース化

プラン概要書（様式第２号）

プラン名:はるひな Welcome Baby Class～赤ちゃんを迎える準備を話そう～　グループ名：はるひな助産院

プランの内容

【地域課題】

・福井県奥越地域は出産施設がなく、妊婦とそのご家族向けのセミナー開催もない。
・産院や自治体によっても妊婦向けクラスの開催内容に差があり、十分な知識が得られないまま産後を迎えて支援が必要な方が多い。
・男性育児休業取得率が福井県は57.3%（2025）まで上昇しているが、パパ向けのセミナーや支援が少ない。

【プラン目的】

妊婦とその家族を対象に、妊娠期から出産後の生活を具体的にイメージできる学びの場を提供する。妊娠期から夫婦で出産・育児について学び、家事・育児の役割を可視化することで、父親の主体的な育児参加を促進し、母親の負担軽減を図り、産後うつ予防に繋げる。

【プラン概要】

・助産院や公共施設等で妊婦とその家族向けの講座を開催し、出産、育児・授乳・産後女性の心身の変化、父親の役割について学ぶ機会を提供する。
・妊婦体験、抱っこや沐浴などの体験型プログラムを導入。
・有料講座への参加特典として家事・育児の見える化チェックシートを掲載したオリジナル冊子と木製製品を作成・配布
・男性育休取得者や母親へのアンケート結果を活用し、実際のニーズに沿ったクラス内容を構築。

【持続性】

・補助事業終了後も作成した冊子や木製製品を活用し、継続開催。
・講座参加費の徴収や企業協賛、福利厚生参入等を目指す。
・購入した妊婦体験ジャケットや赤ちゃん人形は、小中高校でのいのちの授業や性教育講座にも活用し、次世代の教育にも活かす。
・行政、住宅会社、地域企業等と連携し、継続的な体制を構築する。

１年目事業予算

事業予算

収入

項目	金額
支援金	1,000,000
自己資金	14,960
合　計	1,014,960

支出

項目	金額
教材製作費	450,000
動画製作委託費	35,000
物品購入費	444,960
謝金・報償費	15,000
広報費	70,000
合計	1,014,960

想定する事業効果※プラン完了後に実績を更新するものとする

【定量的な効果】

・計12回のクラスを開催
・延べ90組以上の家族が参加
・参加者アンケート満足度90%以上
・全3回コース修了率が全参加者の70%以上

【定性的な効果】

・妊娠・出産・育児への理解が深まり、不安の軽減につながる
・家族で家事・育児分担を話し合い、協力する意識が高まる
・地域の助産師や先輩家族とつながり、孤立や育児不安の軽減につながる
・助産院や地域の支援機関へ相談しやすい環境づくりにつながる